

解答

一

- 問一 ① 自負 ② 容易 ③ 発展 ④ 疑念 ⑤ 観察
 問二 サルを人間より下のものと見下さない心情
 問三 d
 問四 行動のうえの特色が多く、表情豊かでよく声を出して動き回るといこと。
 問五 イ
 問六 群れの中に
 問七 可能な限り自然をみださないように配慮し、群れに入らず客観的に観察するという方法。
 問八 I 平等 II 水平 III 優劣の序列
 問九 イ

二

- 問一 ① ひたい ② けんこうこつ ③ けはい ④ せいぐ ⑤ におく
 問二 エ
 問三 ウ
 問四 ア
 問五 太郎が大胆に泥のなかへ入れるようになったので、周りに危険がないことを確認してから、自由にさせようという意図。
 問六 I イ II ア III ウ
 問七 水のなかの生き物が自由自在に動き回り、思いのままに過ごしている様子。
 問八 ウ
 問九 ア × イ × ウ × エ ○ オ ○

解説

一

- 問四 傍線部Bの後でウサギの様子とは異なるとサルについて述べられています。ウサギは表情もなく声もほとんど出さず、行動のうえの特色も少ないが、表情豊かなサルの世界は、多様で豊潤であることを書き表します。
 問九 「人の顔を覚えるのに、」で始まる段落で述べられていることは、選択肢イの内容と一致します。

二

- 問二 傍線部Aの直前にある「おどろいたように」から、「あまりに意外だった」という記述を含む選択肢エが選べます。
 問五 泥がつくことをいやがっていた太郎が、だんだん大胆に泥のなかへふみこみ、ひとりで這いまわりはじめた頃に、ぼくが水たまりのないことをみとどけ、もとのほとりへもどったことから、太郎の様子と周りの状況を判断しひとりで自由に遊ばせようとする「ぼく」の意図について説明します。